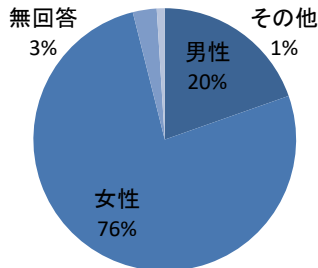


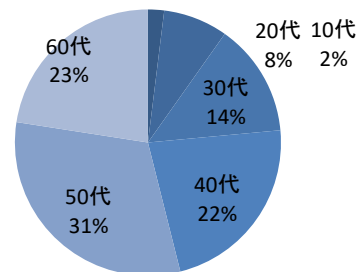
## 第18回東北大学男女共同参画シンポジウム アンケート集計結果

上記シンポジウムに参加された方々に、今後のシンポジウム開催の参考とするため、内容等に関してアンケートを行った。参加者206名のうち、102名の方から回答をいただいた。

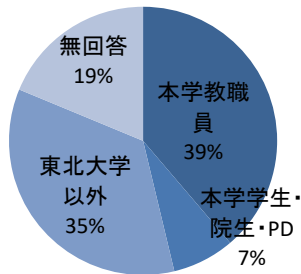
### Q1 あなたの性別をお教えてください。



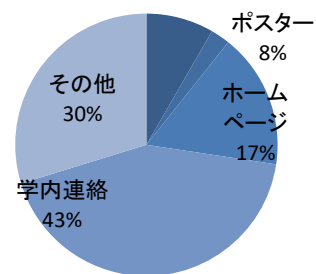
### Q2 あなたの年齢をお教えてください。



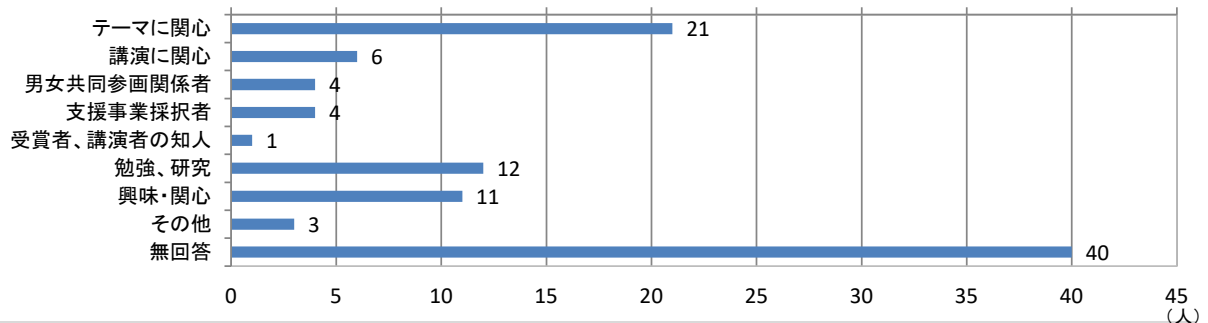
### Q3 職業をお教えてください。



### Q4 このシンポジウムのことをどこでお知りになりましたか。



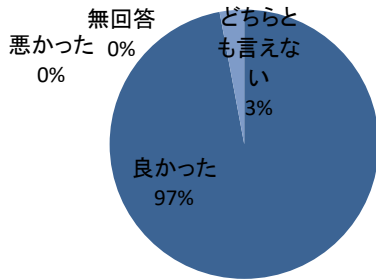
### Q5 このシンポジウムに参加された動機は何ですか。



#### <回答>

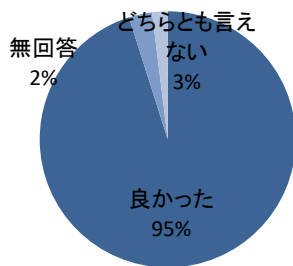
男女共同参画に関するものは女性側からの女性の内容ばかりだったので、男性の立場からという内容に興味を持ったから。/昭和32年大学卒業、国家公務員として勤務した時代は、今よりもっと女性に対するアンコンシャスバイアスが厳しかったように思います。しかし、今53歳になる娘が工学系大学の助教をしている現状を見ても、その不平等を社会的に発言できるようになったという違いはあるものの、社会的制度や経済的状况など大きくは改善していないように思います。その中で東北大学の男女参画への取り組みを是非聞かせていただきたく存じました。/2009年ころから、できる限り毎年参加しています。内容がいつも興味深いので参加しています。/大学1年生の息子が教えてくれたので、一緒に参加しようと思いました。/我が国における男女共同参画社会の本質的な実現を目指し、自身が本研究テーマにおける男性の立場からの研究者であるため、関心があった。/実際に育休を取られた男性職員のかたの体験に興味があったため/男女共同参画委員会に所属しています。何か企画をしようとしても女性をターゲットにした企画しか立案されないこともあり、男性をどのように巻き込んでいくか悩んでいました。また、男性が多い職種の技士会でなんとか女性理事を増やしていきたいと思っています何かしらヒントを得たくて参加させていただきました。/男女共同参画について、女性の立場ばかりから語られることが一部の保守派に強い嫌悪感をもたらしているのではないかとこの疑問を以前から持っていたため。/山口先生の研究に以前から関心があった。

Q6 オンライン配信についてお聞かせください。

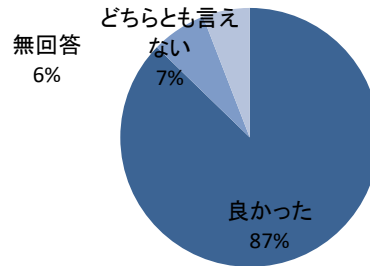


Q7 内容について

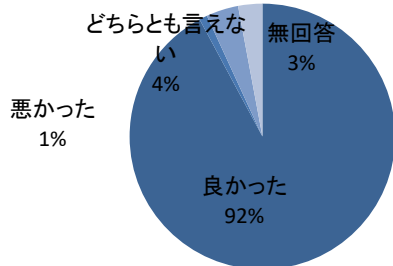
【東北大学における男女共同参画の取組について】



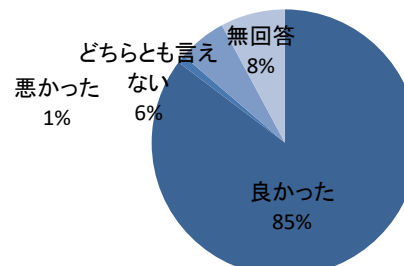
【令和2年度東北大学の働き方調査について】



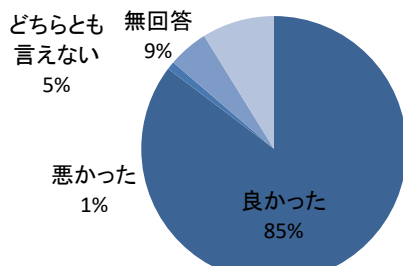
特別講演(山口 一男 氏)



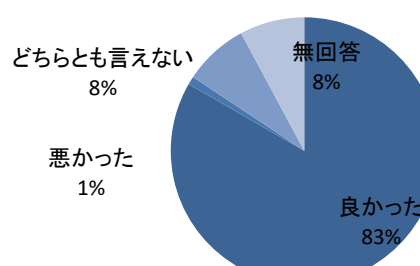
【パネルディスカッション(神谷氏)】



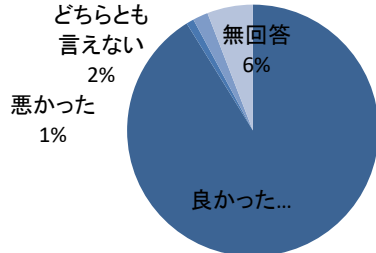
【パネルディスカッション(田名部氏)】



【パネルディスカッション(朱氏)】



【全体として】



#### Q8 東北大学における男女共同参画の取り組みについてご意見をお聞かせください。

- ◆ 大学の女性教員のために、働く環境整備について、より一層力を入れていただきたいと思います。
- ◆ 着実な取り組みがなされていると思います。
- ◆ 大学内に子どもを預ける施設があることはとても良いと思いました。私の大学にも学内に保育園があり、女性の教授の方が保育園があつて助かったと話していました。
- ◆ 管理職の会議に出るとほぼ男性という状況は今も変わりませんし、自分がさらにキャリアアップすることについても躊躇するのが現状です。また定員削減が進む中で、派遣職員でしか補充されないため、職場にかける負担を考えると育休を取りづらい環境にあります(特に係長が出産することはとても難しいです)。休む方もサポートする側もできるだけ負担が少ない方法を検討いただけると幸いです。男女ともにワークライフバランスを保ちながら同じレベルで切磋琢磨できるようになることを願います。
- ◆ 東北大学のような大きな大学では、男女共同参画に非常に積極的に取り組んでいることがわかった。翻って回答者が勤務していたような医学部の単科大学では、現時点でも臨床系において教授職についている女性はいなかったり、有能な女性教員に昇進の機会を与えていないというような現状がある。このようなシンポジウムや取り組みを他大学にも積極的に発信し、このような問題のリーダー的存在であってほしい。
- ◆ TUMUGの取り組みは大変素晴らしいが、女性事務職員も利用できる機会を検討いただけるとありがたい。事務職員が産休もしくは育休を取得すると、本部から派遣職員の代替措置をいただけるが、事務職員の職務を代わることは相当難しく現場ではそのフォローに苦慮しているところもある。人事異動などで事務職員同士で代替できるような仕組みがないと、男性の育休取得率の向上にはつながらないのではないかと危惧している。
- ◆ 毎年、いろいろな工夫をこらしていらっしゃると思います。コロナ禍をきっかけにはじまったランチミーティングも、今では毎月の楽しみの一つです。今回のシンポジウムも同時通訳つきと聞いて、驚きました。
- ◆ 最新のデータ等を示していただけるこうした取り組みは非常に参考になる
- ◆ 育児との両立支援等、男女共同参画に関する様々な支援があり助かっている。また、例年シンポジウムを通じて意識の啓発や、新しい知見を学ぶ機会をいただき感謝している
- ◆ 日本における一つの代表例ですね。グランドデザインの完成にもうすぐ近づきますね。DEI 宣言にも期待しています。Equityの解釈が成果を分けると思います。

#### Q9 男女共同参画に関連したシンポジウムで、何かご希望の企画がありましたらお書きください。

- ◆ 無意識のジェンダーバイアスについて、市民も巻き込むような企画をなさったらどうかと思います。
- ◆ 女性が自己肯定感をアップさせて、実力があるのに昇進などを躊躇しがちな現状を 打破するにはどうしたらよいかについて 何かヒントが得られるような企画があると嬉しいです。
- ◆ 若い世代(学生)が学んでいる男女共同参画の授業や学生が行っている活動など(自主的なものも含めて)。学生が企画するシンポジウム。
- ◆ 山口先生のように、男女平等な社会の実現について研究されている方の考察について拝聴する機会があると嬉しいです。
- ◆ 子どもを希望している女性の心に寄り添う企画
- ◆ 新しく女性を採用したことでどのような効果が生じたか(あるいは変化はないなど)、具体的な例を紹介していただきたいと思います。
- ◆ リケジョは、どうしたら増えるか？
- ◆ やはり女性の活躍、立場の促進に向けたパネルディスカッションをお聞きしたいです。
- ◆ LGBTなど、男女共同参画にとどまらない取り組みについて
- ◆ 家族で楽しめる柔らかめの企画があってもよい
- ◆ (政府の取り組みと東北大学の取り組みをもっと俯瞰的にみて、)男女共同参画はどこを目指すべきかを考える
- ◆ ロールモデルとなる女性リーダーにご登壇いただく企画と今回のような男性演者が相対的に多い企画を隔年でやるなどシンポジウム自体の多様性に期待します。
- ◆ 山口先生のアンコンシャスバイアス、建前の本音からの乖離、意識の歪みについての学術がこういった社会的課題に取り組む上で重要に思える。同様の視点から研究者の方々の議論を拝聴したい。

#### Q10 今回のシンポジウムについてご感想をお聞かせください。

- ◆ 特別講演の中で、実証に基づいて分析された結果を知り、わが国の女性の待遇の劣悪さを改めて認識しました。また、このご講演に関して、男女局長がコメントされたことも非常によい内容だったと思います。非常に率直に「悩んでいる」とおっしゃったことにも感銘を受けました。男性の育休に関連した実体験から、男性が育休を考える際に参考になる知見なども参考になりました。最後に、よりフレキシブルに休めることの重要性をお話になっていたと思います。このことは、他の男性で育休を経験したりしようとしている方々からも聞いたことがあるので、女性の育休も含め、より個人や家庭の事情にそって、休みやすい、制度になること、そのために、職場環境の改善などを東北大学が率先して進めていただけたらよいと思いました。また、オンラインでの開催は、遠距離から参加できるメリットがあり、非常にありがたいです。
- ◆ 山口先生の理論的な講演内容は大変参考になりました。男性の育休の取得期間がまだまだ短期が多い中、田名部さんが1年間取得したことを発信していただけて良かったと思います。パネリストの中に、企業で働く女性・男性も加えていただければ良かったと思います。また、登壇された方々が、「だんなさん」「奥さん」「主人」という呼び名を使っていたことに違和感を感じました。

- ◆ 大変素晴らしい企画で、興味深く聴かせていただきました。関連の皆さまに厚く暑く感謝申し上げます。
- ◆ アカデミックな要素とプラクティカルな要素を融合しようと努力なされていた点が印象的でした。オンラインは参加が容易ですが、集中力にややかけるかもしれません。
- ◆ 山口先生に講演に興味湧くとともに大変勉強になりました。著書なども読んでみたいと思いました。
- ◆ 女性が途中でドロップする理由がライフワークバランスのアンバランスが理由である可能性が示唆されていました。現場の感覚ではドロップアウトする一番の理由は任期満了後、次の仕事が決まらずにアカデミアを去るパターンが多いです。子育て中であることはポジションを獲得する壁になるようです。この任期満了に伴うドロップアウトと再雇用の困難さも、ライフワークバランスの問題ということになるのでしょうか？
- ◆ 山口先生のデータに基づくお話は説得力がありました。パネル討論ではどなたの発表も具体的でわかり易くて、4月以降の法律施行もあり、タイムリーだったと思います。小川先生の調査結果の報告も、堂々とされていて、活躍ぶりを拝見できてとても良かったです。シンポジウムの準備をされた皆さま、お疲れさまでした。時間があっという間に過ぎました。
- ◆ 講師、パネリストのお話がそれぞれ興味深く、専門家、そして仕事や育児をしている当事者として話題がバランスよく構成されており、親近感を覚えながら聴講できました。オンライン聴講で気軽にセミナーを受講できるようになりました。いろいろな人に関心を持ってもらいたいテーマですのでこれからも配信をお願いします。
- ◆ 大変面白かったです。特に田名部先生の講演はスライドも見やすくメリハリのあるお話でとても素晴らしかったです。「男性の立場から」というタイトルから期待していた内容とは異なりましたが参加してよかったです。
- ◆ 男性の立場から、という視点がよかった。
- ◆ 構成上、男女の立場のパネリストにご参集いただいたのだと存じますが、今回のテーマであれば、より深部、核心に触れる内容でもう少し男性の立場を強調する内容でディスカッションしていただいても良かったのではないかと、という印象を持ちました。フォーマルなシンポジウムであることから、発言内容、提示する資料には制限があるかと存じますが、新しい知見の獲得というものではなかったという感想です。ありがとうございました。
- ◆ 男女の賃金の差を詳細なデータに基づいて分析されていて、非常に興味深かったです。
- ◆ 山口先生のデータに基づいたお話はとても興味深かったです。女性割合の大きい専門職の賃金のバイアスや、歴史の古い職業と所得の関係等、新しい視点を獲得することができた。
- ◆ なんとなく理解してはいたが、データの提示等により、各国との比較や、日本がまだまだこの取り組みにおいては後進国なのだと痛感しました。私において、今も子育て時代の役割が持続していますが、まずは自分の家庭を変えていければいいなと思いました。ととても、勉強になり刺激を受けました。この機会にご教授頂けましたことを感謝いたします。
- ◆ 多様な視点で情報が多数あり大変勉強になりました。シンポジウムを拝聴した上での感想ですが、理科に興味がある女性の数が小学校から中学校になると途端に減少する話がありましたが、その理由を知りたいと思いました。理由は社会の構造(文化?)が背景にあるような気がします(タイではサイエンス分野は女性研究者の方が多く様です)。これがわかると、女性研究者の少ない理系分野の女子学生数、女性教員率が上がるのではないかと思います。
- ◆ 日本語と英語が選択できる点が非常に良かったです。英語を選択している人の気持ちになって参加してみました。ありがとうございました。
- ◆ 大変面白く時間が経つのがあっという間だった。特に、山口先生のお話はわかりやすく、もっと色々なこともお聞きしたいという印象を持った。
- ◆ 基調講演・パネリストの方の講演・発表内容が、別でありながらリンクしていること。実体験と調査に基づく結果が関連づけて説明されたことが、大変理解しやすい内容でした。男性の育児休暇取得された日常が、具体的に説明され、また、取得動機も提示されたこと。子育て終了世代ですが、感動しました。ペアレンティングの誤解についての説明が、ジェンダーに関わらないことを聞かせていただき、うれしく思いました。
- ◆ 男女共同参画社会実現に向けた意識はかなり高くなっていると感じてきたが、その実現の実際はまだ道半ばであると感じています。その背景にはなかなか解決しきれない私たちの意識、習慣などの問題が山積していると感じることができたシンポジウムでした。ありがとうございました。
- ◆ 今回、男性の立場からというテーマで、大変興味深く聞きました。特に実際に長期の育児休業をとった田名部さんの話が、体験者ならではのリアリティにあふれたもので、興味深くなりました。また、今回のテーマは、男女共同参画の問題をより開かれた場で討論し考えていく上で、よいテーマだったと思いました。今後も期待しております。
- ◆ 今まで体感していたことが数字に表れて嬉しかった。母親が1年休業することも、男性同様にリスクがあるので、出産をためらう若い有能な女性が多くなっている。ずいぶん良くなってきているとは思いますが、まだまだ手助けが必要だと痛感した。
- ◆ 研究者のみでなく、図書館職員(一般会社員)からのお話もお聞きできることは、とても良かったです。
- ◆ 今の年齢や役割のもとで後輩や部下に対して何ができるかを考えるのに役立った。
- ◆ アンコンシャスバイアスについて、改めて考えてみる良い機会となった。社会の中で男女の働き方などで依然とした違いがある中で、さらにその変革を進めていくには何が一番大切なのだろうか。引き続き色々な専門家の方のご意見を伺ってみたいと思った。